



第7回
東京都狛江市
「水辺の楽校」



日本全国小学校
ご当地行事紹介
狛江市立狛江第三小学校

狛江市立狛江第三小学校



今回紹介するのは、東京都狛江市立狛江第三小学校の「狛江水辺の楽校」です。「水辺の楽校」は、平成11年度に国土交通省が創設したプロジェクトで、地域の水辺を遊び・自然体験・自然学習の場とする取り組みとして、全国各地で活動が行われています。

「狛江水辺の楽校」とは？

「狛江水辺の楽校」の取り組みに参加したきっかけを教えてください。

「狛江水辺の楽校」は、子どもたちと多摩川との自然との触れ合いの場です。行政と市民団体、学校が協力して運営し、子どもたちの自然学習や環境学習を支援しています。本校では子どもにも、「自分たちが住む地域にある多摩川の自然や人々との関わりを通して、自分が地域の一員であることに気づき、地域のために自分ができることを考えて実践できるようにしてほしい」という願いから「狛江水辺の楽校」に参加するようにになりました。

活動の具体的な内容

どのような活動をしているのか教えてください。

本校では、四年生が「水辺の楽校」に参加しています。昨年の春の活動では、初めに全員で多摩川に行き、河原には様々な種類の草花や生き物が生息していることを知りました。そこで次の回では、子ども一人ひとりが特に興味をもったことについて、植物・魚・昆虫・野鳥・化石の5グループに分かれ、専門的な知識をもったボランティアの方々と

一緒に調べ学習を行いました。

「野鳥グループ」では、用意した双眼鏡で、どんな鳥がどんな場所にいるか、声を静めて観察します。

「魚グループ」では、葦の茂みに足をそっと入れてがさがさと揺らすと、魚がびっくりして出てくることを教えてもらいました。そこで、子どもたちが早速試したところ、茂みから大きなナマズが飛び出してきて歓声が起こりました。



作文

水辺の楽校で学んだこと

僕は多摩川で、双眼鏡を使ってシジュウカラやホオジロなど、全部で十八種類、百十羽も見ました。双眼鏡を使って見つけるのは、はじめはとても難しかったですが、ボランティアの方が見つけ方のコツを教えてくださいましたので、簡単にできるようになりました。多摩川に、こんなにたくさんの種類の野鳥がいると思っていなかったのです、びっくりしました。鳥のくちばしは、太いものや長くのがつたものなど、形や大きさが違うことが分かり、その理由を調べることができました。すると食べる物と関係があることが分かりました。人間のように歯をもっていない鳥たちが、どんな食べ物をもっているのか、もっと調べていきたいと思いました。



(児童の作文の一部を紹介しています。)

手作りの仕掛けでの魚探し▶

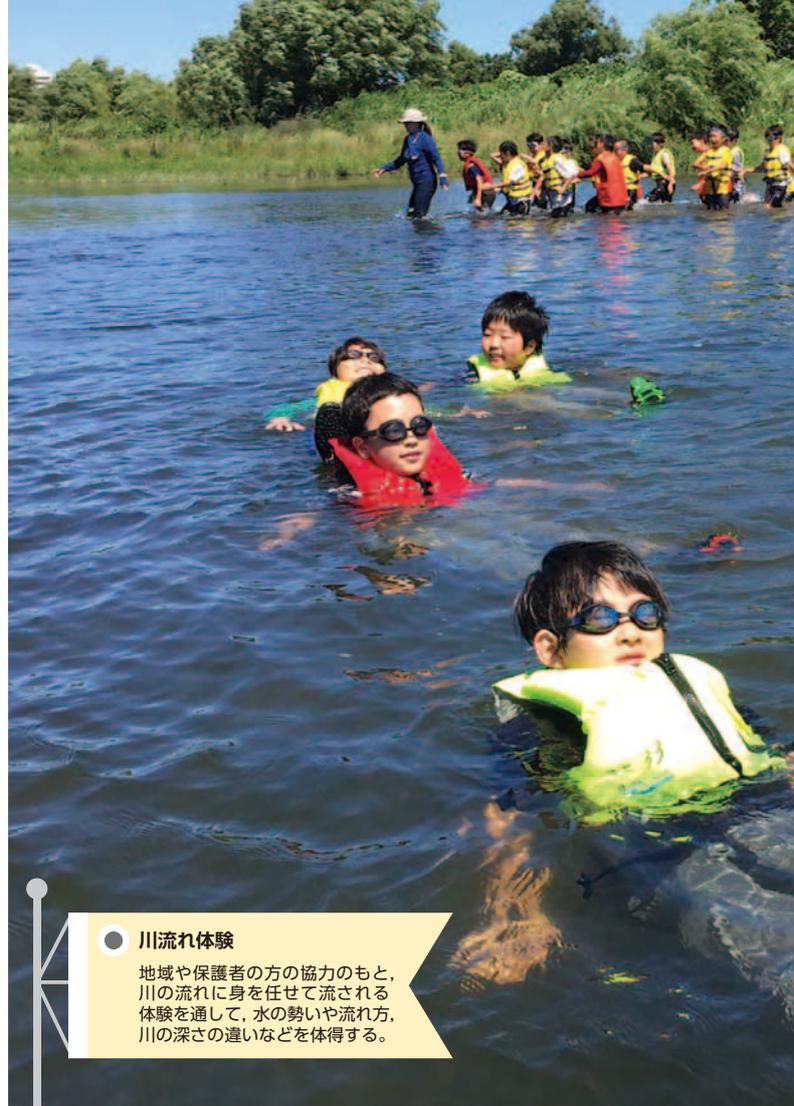


◀ 野鳥の観察

多摩川の川原で見つけた野鳥



◀ 見つけた野鳥について観察カードにまとめる。



● 川流れ体験

地域や保護者の方の協力のもと、川の流りに身を任せて流される体験を通して、水の勢いや流れ方、川の深さの違いなどを体得する。

取り組みの成果

——子どもたちの成長に、どのような影響を与えていますか？

身近な地域で見つけた課題に対し、仲間とともに主体的に解決しようとする力が身についたと思います。知的好奇心が高まったことで、どの教科においても、「なぜ？」「どうして？」という思いをベースにした探究的な活動につながっています。タブレット型端末を利用して調べたことをクイズ形式にしたり、プレゼンテーションで紹介したりするなど、伝える相手を意識して内容を考えられるようになっています。

地域との深い関わり

——「狛江水辺の楽校」と地域との関わりについて教えてください。

「狛江水辺の楽校」は、本校の近くを流れる多摩川を活動の場としています。地域の自然と直接触れ合える貴重な場である一方、河原での活動には危険が伴うことも多く、市民ボランティアの方や保護者の方の協力が欠かせません。地域の人々と深い関わりをもち、たくさんの方に支えられているからこそ、充実した活動ができると思っています。

(*所属や役職は、平成28年度)



【水辺の楽校】を通して子どもたちに伝えたいこと

「狛江水辺の楽校」
運営協議会副会長 竹本久志さん

子どもたちにとって、川はたいへん魅力あふれる場所です。野生の魚や虫たちがくらし、校庭や公園と異なる自然環境は冒険心や好奇心をかき立てます。

私たちはこうした河川環境を保全・整備し、子どもたちの自然体験や環境学習の場として活用するお手伝いをしています。地元の川で遊び学ぶ体験を通して、ふるさと狛江が大好きな子どもたちになってほしいと思います。



【水辺の楽校】に 取り組んで

狛江市立狛江第三小学校
4年生担任 石井栄先生

みんなで遊び、学び、大切にしたい多摩川の自然。東京で子どもたちがこれだけの自然と触れ合える場所が学校の近くにあることは、とても幸せだと思います。

我々教員としても、「狛江水辺の楽校」のような、人と自然とのつながりを大切にする働きかけを、地域や保護者の方へ行っていかなければならないと感じています。